

柏の芽、生える Kitazawa lab starts with new members 一柏・北沢研究室、新チームで始動一

新領域創成科学研究科の北沢研究室は柏キャンパスにありますが、都市デザイン研究室とはプロジェクトを合同でやるなど、協力して研究に取り組んでいます。今回は、都市デザイン研究室の仲間である北沢研究室の活動内容、新メンバーを紹介します。

Kitazawa lab at the Kashiwa campus carries out some projects with Urban Design lab. This is Introduction of the studies, the projects, and the new students.



活動紹介 Study and Project D3 関谷進吾 (北沢研究室)

北沢研究室では、アーバンデザイン及び都市計画と公共政策に関する空間論と実践的方法を研究しています。特に、空間の解釈を歴史や風土、界限、生活、産業の諸相から統合的に進めています。また、自治体や地域組織と連携して現実の政策や計画に参加しています。2006年にUDCK柏の葉アーバンデザインセンターを公民学協働で創設、当研究室が中心的な役割を担い、2007年からは福島県田村市と共同で地方都市の問題と再生を調査しています。2008年からUDCY横浜アーバンデザインセンターの設立、同調査/構想、福島県にて、UDCT田村地域デザインセンター、UDCKo郡山アーバンデザインセンターを設立、各々まちづくりに関与しています。2009年からは同時に、世界のアーバンデザインセンターの研究を進めています。その他、世界の環境空間政策についての調査、そして日本やアジアの諸都市への計画やデザインの提案を通して、人間が中心となる社会や空間の未来設計、あるいは固有の空間や柔軟性の高い空間モデルを考えています。

新メンバー紹介 New students

丸上 雄哉

恐がらず、色々なことに
ぶつかっていく2年間にしたいです。

竹田 恵利加

これから、マイペースに前向きに
いろいろなことにチャレンジして
成長したいです！

小島 良輝

現実社会のまちに関わりたいと思い、この
研究室にきました。プロジェクトなどで様
々な都市に行けそうなので楽しみです。
よろしくお願いします！

林 志勲

All i need is within me

福角 朋香

こんにちは。福角です。入学して1ヶ月が
経とうとしています。柏北沢研究室、本郷
都市デザイン研究室共にたくさんプロジ
ェクトを行っていて、とても驚きました。
そして色々なことができる期待感でいっぱ
いです！その中での経験や出会いを大切に、
この2年間、丁寧に過ごしたいと思います。
よろしくおねがいします！！

金 令牙 (キムヨンア: 研究生)

日本人よりナットとにがうりをよく食べる
韓国人です。日本のまちづくりにおぼれて日
本にきました。よろしくお願いします。

阿南 隆史

新しい環境でたくさんの方の事を吸収していきたいです！
よろしくお願いします。

Information about English Seminar

M2 Ryo NISHIKAWA

We will start a seminar about city planning and urban conservation in Europe and America. In this seminar, Nishimura sensei will have a lecture about historic urban landscape (June 1st, 2 pm), Abe san will have a lecture about urban conservation in Barcelona (and Kubota sensei and Nakajima san will have some lectures... maybe...). If you have an interest, join us at the first meeting, on 15th at 4 pm.

都市デザイン研究室 5月の予定

5月14日	第2回研究室会議
5月18日	ポーランドの視察団との交流 第3回読書会 「風景とは何か」内田芳明著

特別企画！ M1 Campus Tour

text_suzuki

4月30日暖かな日差しの下、他大学から研究室に入ってきた新M1阿部、神原、黒川、櫻庭の4名と本郷キャンパス散策を行いました。新M1の雰囲気や考え方を伝えると同時に、私たちが日ごろどういう環境で研究を行っているかを伝え、多くの人に都市デザイン研究室に興味を持ってもらいたいと思い生まれた企画です。また、本郷1年目の4人の目から見るキャンパスは、本郷に慣れ親しんだ他メンバーの見るものとは違うかもしれない。そんな、期待も抱いてキャンパスツアー開始です。



▲ 左から櫻庭、黒川、神原、阿部

広場の動線

まず、我が研究室のある14号館のすぐそば、“工学部1号館前広場”からスタートです。この日は天気もよく、多くの人がベンチや芝生に座ってのんびりしていました。「最初本郷キャンパスに来た時、学生以外にも子どもや、おじいちゃん、おばあちゃんが散歩していてびっくりした。」と黒川。神原も「子どもたちが遊んでいるのを見ると微笑ましい。」とうなずく。この広場は2年前に改修が行われて以来、天気が良い日には多くの人の憩いの場となっている。話は広場の動線に移り、「最初は広場内へのアプローチが最短距離ではなくて、歩きにくいという印象を受けた。でも、この前西村先生の授業でその理由がわかったよ。」と阿部が話す。阿部の説明によると、広場の中心へのアプローチは、正門と広場、安田講堂を直線で結んだもので、昔からそのアプローチは残されてきた。現在では正門との間に建物が建ってしまい、そのアプローチの一部だけが残されており、少し違和感のあるものになっているのだという。授業や本で学ぶだけでなく、実際の空間に身を置き感ること、これが都市を学ぶものとしてあるべき姿であり、都市を学ぶ魅力なのだと改めて感じました。



次にやってきたのは、法文1号館、2号館、文学部3号館を貫く“アーケード”。ここは櫻庭のお気に入りらしく、「ヴィスタが気持ちよくて、すごく好き。」と笑顔で話す。「夜ライトがつくと、また感じが違って面白い。」と阿部。最後は文学部3号館は法文1、2号館のアーケードによるヴィスタを壊さないようにあとから建てられたため、少し変わった建物になったのだろうと、一同納得して次の場所へ。

アーケードのヴィスタ



▲ 文学部3号館を貫くアーケード



奇妙な光景

▲ 途中で切られてしまった建物

並木と安田講堂



▲ 芝刈りを解説中の黒川

続いてやってきたのは安田講堂。「やっぱりここが東大のシンボルでしょ。」と神原。阿部もうなずいて「東大に入る前から、東大のイメージはこの並木と安田講堂。一番大学って感じがして好きだね。」と言う。ずっと東大シンボルであり続けてきた安田講堂と銀杏並木であるが、近年では周りの建物が新しくなり、講堂の周辺の雰囲気が変わってきている。講堂の背景には理学部のガラスのファサードが顔を出している。工学部2号館は低層部の一部だけ古いまま残り、新しい高層の建物となっている。「違和感がある。」と話す櫻庭や、「丸の内の31mの話に似てるよね。」と話す黒川に一同うなずいていた。



▲ 最後はみんなで楽しくご飯



▲ キャンパス内にもこんなに緑があるんです

安田講堂を出た一行は、三四郎池に寄った後、普段はなかなか行く機会のない医学部、薬学部周辺まで足を伸ばした。龍岡門で折り返し病院の前を通り、生協本部、書籍部あたりを歩いていると、阿部が何やら面白いものを見つけた。理学部の建物のひとつが、途中でスパッと切られているのです。もちろん、ちゃんと壁にはなっていますが、柱や梁が露わになっており、奇妙な光景となっています。隣の建物（安田講堂の背景に顔を出す例の建物）を建てるために一部取り壊すしかなかったのでしょう。それにしても、新たな建物のためにスペースをつくるという目的のみ達成すればそれでいいのかと思わざるを得ません。「黒に塗っただけっていうのはちょっと。」「緑が侵入してくるのを待ってるのかね。」と、一同やや呆れ気味でした。

刺激し合う仲間

総合図書館、福武ホールを歩いて見た一行は、中央食堂で東大の味を堪能してツアー終了。

本郷キャンパスには歴史ある建物や空間がたくさんありますが、次々と新たなものが入ってきて変化が激しいのが現在です。他大学から入ってきた4人はそういった変化に敏感であるように感じました。新M1は他大学から4人、内部進学5人の9人であと2年過ごすわけですが、お互い刺激し合って都市について深く考えていきたいと思います。

編集後記

はじめまして。マガジン編集部の新メンバーとなりました鈴木です。編集部員としての目標はマガジンに「新たな風」を吹かせられれば、と思っています。楽しみながらいろいろやっていきたいと思います。今回は取材らしい感じを出したいと思ったのですが、自分の考えが多いような気がして少し反省です。感想、アドバイスなどあれば、ぜひ声をかけてください。

text_suzuki